

第1935回埼玉県教育委員会定例会

- 1 日 時 令和4年7月28日(木) 午前10時開会
午前10時53分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 高田教育長、石川教育長職務代理者、戸所委員、小林委員、古垣教育総務部長、石川県立学校部長、小谷野教育総務部副部長、臼倉県立学校部副部長、田中県立学校人事課長、阿部市町村支援部参事兼小中学校人事課長、南雲福利課長
案浦書記長、岩崎書記、原口書記、森田書記
- 4 会議の主宰者 高田教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
 - 高田教育長が、石川教育長職務代理者を議事録の署名者に指名した。
- (2) 議事
- 第60号議案 令和5年度当初教職員人事異動方針について 上程
- 田中県立学校人事課長 (提案理由及び基本方針について説明)
- 石川教育長職務代理者 昨年度から変更した点を教えてください。
- 田中県立学校人事課長 昨年度に文言の整理をしましたので、今年度、内容の変更等はありません。
- 戸所委員 4ページに「障害のある教職員については、個々の障害の状況、能力、適性等を考慮し、適切な配置に努める。」との記載があります。積極的にやるべきだと考えますが、障害のある教員の総数について教えてください。また、5

ページに「同一校勤続年数の長い者については、積極的に異動を行う。」との記載がありますが、どのくらいを長いと考えているのでしょうか。また、この基準に該当する教員数を教えてください。

田中県立学校人事課長 県立学校における令和4年度当初の障害のある教職員の人事異動の件数は、教員4件、事務職員5件の合計9件の異動がありました。障害のある教員の総数は、確認し、後ほど回答します。

阿部市町村支援部参事兼小中学校人事課長 小・中学校の障害の教員の採用数は、令和4年度3名、令和3年度5名、令和2年度3名、令和元年度は3名、平成30年度は1名です。障害のある教員の総数は改めて確認させていただいて回答いたします。

田中県立学校人事課長 異動対象となる勤務年数は、採用されてから1校目は5年以内、2校目は7年以内、3校目は10年以内という原則があります。この原則を基に、同一校勤続年数が長期にならないよう留意し、校長との面談を通じ、学校の状況や教職員の一人一人の能力や意欲を把握し、同一校の勤続年数の長い職員の異動を積極的に行っています。令和4年度当初の人事異動で11年以上の教職員が異動した件数は、高校は62名、特別支援学校は30名が異動しました。その結果、同一校の勤続年数が11年以上の教職員の割合は、高校は9.2パーセント、特別支援学校は5.2パーセントとなっています。

戸所委員 明確に人事異動方針を出していますので、全体の数はしっかり把握していた方が良く考えますのでよろしく申し上げます。

○ 全出席委員異議なく本案原案どおり可決

(3) 報告事項

令和4年度埼玉県公立高等学校入学者選抜の結果分析について

臼倉県立学校部副部長（提出理由、目的、分析方法、平均点の推移、分析内容、分析のまとめ、令和5年度入試の問題作成に向けて等について説明）

石川教育長職務代理者 0.7パーセントという正答率が低い数学の問題がありました。出題する側は、暗記問題のような簡単な知識問題ではなく、複雑で

多方面から考えて思考力を問う問題として良問であると出題したが、結果的に正答率は低くなってしまったのだと思います。しかし、今後の方向性は、思考力・判断力・表現力をみる問題も出題されることとなり、学習塾等は徹底的に分析して、対策を立てて指導していくと思います。そこで、中学校等では、この結果をどのように受け止めて、今後の授業に生かしていくのでしょうか。今回分析した結果を中学校等に提供し、中学校等が改善していく仕組みはあるのでしょうか。

臼倉県立学校部副部長 分析結果については、総合教育センターのホームページで掲載する予定です。入試は、中学校の勉強で学んだ集大成であり、この結果を踏まえて、中学校の授業の改善するため、今回の資料を活用してほしいと考えています。

小林委員 学力検査も学校選択問題も、子供たちが今まで学んできたことを表現できる場であってほしいと思います。平均点が低かった数学は、出題の傾向が変わったこともあると思いますが、時間内に問題が解き終わらないという話を聞きました。思考力・判断力・表現力を問う問題は、解答に時間が掛かるのではないかと思います。全体的な問題数のボリュームなどはどういった形で検討されているのか教えてください。また、受検生は、第1志望の学校に合格したいという思いで勉強をしているので、高得点を取るためにいろいろと工夫をしていると思います。塾などでは、合格するためには、捨てる問題を教えたりしている場合があるかもしれません。そうすると出題側が意図している生徒の見たいところを見られない懸念がありますが、そのことについてどのように考えているか教えてください。

臼倉県立学校部副部長 委員お話のとおり、正答率が低かった問題が、取り組んだ結果、解答できなかったのか、それとも時間がなくて解答できなかったのか、または問題を見た瞬間に諦めてしまったのか、解答をしっかりと分析する必要があります。入試は、中学校で学んできたことを踏まえ、全ての問題に対して取り組めて点数に反映されるのが理想です。当然受検生によって問題を解く時間は異なりますが、受検者全員が時間内に全ての問題にしっかりと

取り組めることを前提に問題を作成しています。傾向が変わったこともありませんが、様々な要因を含めて分析を更にしたいたいと考えています。また、この問題を捨てて他の問題を完璧にできるような入試のテクニックの指導は、出題する側の意図と異なります。受検者が全ての問題に力を発揮して点数が取れることが大事だと思いますので、そうならないように問題を作成していきたいと考えています。

戸所委員 今年度から思考力・判断力・表現力をみる問題を出題したことは、日本全体の方針とも合致し、社会に出ても必要だと思いますので出題することは賛成です。しかし、思考力・判断力・表現力は、中学校の段階で伸びる生徒もいれば、高校で伸びる生徒もいると思います。入試はある程度のレベルであれば合格させ、思考力・判断力・表現力は、高校生の段階で伸ばすという考え方で選抜していると思いますので、極端に低い正解率の問題は、検討が必要ではないかと思います。

臼倉県立学校部副部長 多くの生徒が正解になっている問題となかなか正解にならない問題がありますが、ある程度点数の分布が散らばるよう問題を作成しています。しかし、数学の問題については、得点が高い受検者を分布させようという思いが、異なる方向に行ってしまったことも、一つの要因としてあるかもしれません。御指摘していただいた点も含めて、受検生の実態に即した問題作成に努めていきたいと考えています。

高田教育長 3ページの4(1)得点の散らばり具合である標準偏差は、令和3年度と令和4年度の標準偏差はさほど変化はなかったとの説明がありました。学校選択問題の数学、英語は、標準偏差が小さくなっていますが、そのことについてどのような評価をしていますか。

臼倉県立学校部副部長 学力検査問題を行っている学校数は多く、また様々な学校が行っているため、標準偏差が大きくなる傾向にあります。一方、学力選択問題を選択している学校は22校と少なく、得点率が似ている学校が多いため、標準偏差が小さくなる傾向があります。各学校単位で標準偏差を考えた場合、もう少し狭い範囲、標準偏差の数字が小さいと思います。県全体の全ての学校

の学力検査で考えると標準偏差は広がります。そうすると、令和4年度の学校選択問題の数学、英語の標準偏差が真ん中に集中し過ぎているとは言えないと考えています。

高田教育長 教育委員の皆様から御意見、御指摘を頂きありがとうございます。学力検査は、中学生や中学校教育に対して非常に大切なメッセージです。具体的には県立高校に入学するためには、こういった力を中学校段階で身に付けてほしいという大事なメッセージになっています。今回の分析ですが、点数のみを分析するだけでなく、総合教育センターで各学校の答案を集め、一枚一枚の答案を見て分析をしています。全く手につかずに解答しているのか、それとも取り組んだ結果、解答しているのか、間違えている箇所を確認するなど、解答の経過を見ながら行っています。入試問題を作成にするに当たり、受検生が可能な限り最後まで意欲を持って取り組めるような問題になっていること、さらに、各学校の選抜としての機能を果たせるような一定の難易度を保っていること、御指摘を受けた点も含めて、より良い学力検査問題の作成に取り組んでいきます。また、埼玉県では小・中学校段階で埼玉県学力・学習状況調査を毎年実施しています。その調査でも思考力・判断力・表現力をみる問題を含めており、その連続性の中で最終的に学力検査を迎えてもらうというコンセプトであると考えています。小・中学校の教育と高校にこれから入学してくる生徒に期待することの関連がしっかり分かるよう、学力検査の問題作成に努めていきたいと考えています。

(4) その他

案浦総務課長 第60号議案の「令和5年度当初教職員人事異動方針」の際に戸所委員から質問がありました障害者の教員の総数について数字を確認しましたので担当課長から回答させますがよろしいでしょうか。

高田教育長 入室を許可します。

田中県立学校人事課長 令和4年度6月1日現在の障害のある教員は、県立高校では60名47校に配置しています。このうち本採用の教員は43名です。特別支援学校には72名15校に配置しています。このうち本採用の教員は57

名です。

阿部市町村支援部参事兼小中学校人事課長 小学校では48名48校に配置しており、このうち本採用の教員は41名です。中学校には34名34校に配置しており、本採用の教員は29名です。

戸所委員 特別支援学校が一番多いことは非常に良いことだと思います。生徒のために非常にプラスになると思いますので引き続き配置をお願いしたいと思います。

(5) 次回委員会の開催予定について

8月8日(月)午前10時

<非公開会議結果>

第59号議案 埼玉県教職員健康審査会委員の委嘱について

埼玉県教職員健康審査会委員の任期満了に伴い、埼玉県教職員健康審査会規則の規定に基づき、12名の委員を委嘱することを決定しました。

第61号議案 退職手当支給制限処分について

元公立学校男性教諭に対し、一般の退職手当等の額の全部を支給しないこととする処分を決定しました。